



マッシー川口の

from New York

自由の女神、
こんなレポート、一度はおいで

ハロー、こんにちは。ニューヨークは陽射しの強い毎日。海で泳ぐにはまだ早いの、船に乗って、涼しい水しぶきの景色を見に行こうと！



マンハッタンの南端、バッテリーパークは金融街のウォールストリートから歩いて7~8分。花咲く広い公園の中に、ニューヨークの人気観光ポイント「自由の女神」行きの波止場があるのよ。結構わかりにくいのでピーケーアフル。近くのりっぱな船乗り場はスタッテン島行きで、間違えてそっちの船に乗ってしまう観光客も多いらしい。

「自由の女神」は英語で「statue of liberty」人に道を聞くにも、なかなか口から出てこないのがこの単語。ちなみに、この単語は訳すと「自由の彫像」で、女神の意味はナシなのよね。

さあて、ココの効率のよい観光のコツは、まず朝一番の9時すぎの船に乗ることね。それで、自由の女神のいるリバティ島まで約15分の船旅を3階の船のデッキでゆっくり景色を満喫しつつ、船を降りる直前にはすぐ降りられるように下のデッキで待っててね。

突然目の前に現れる女神像にはいつ見ても感動するわ。アメリカ建国100周年のお祝いにフランスから頂いた世界遺産で高さ40メートル。島に着いたら一目散に走って女神の展望台の入り口に並ぼう！そのとき、チョイスは2つ。エレベーターで途中の展望台まで行くラクラク組か、女神様のかぶっているクラウン（王冠）まで階段で登るがんばり組かどちらか選ぶワケ。中では変更ができないようになっているから注意してね。私のお勧めはやっぱりクラウン行きよ。階段は長いけど、思ったよりもしんどくないし、女神の身体の中を確認しながら、下から階段で登るのもまた楽し。

女神の顔の上のクラウンのところの窓では、みんな写真を撮りあったり、くつろいだりしちゃうので、一組ずつ時間がかかるのよね。だからこそ朝早くが肝心。これがお昼頃の船で着いたら何時間も待つことになるのさ。後で女神を見るたびに、クラウンのあそこまで行ったんだ！と思い出になってヨロシと思うワ。日本に来ているフランスの女神は小さい（ニューヨークの4分の1）のももちろん内部観光はないの。女神の中で展示館を見た後は、女神像の周りのお歌



New On Air!!

毎週アップデートする NY 情報!!

Real PlayerをインストールしてLet's Go !!
Masshy Kawaguchi From NY '98
<http://www.ipgn.com/~masshy/>

マンハッタンに戻って、この自由の女神の歴史の本を買おうと思っても、大きな本屋でも子供向け教育のペラっとした一冊しか売ってなくて愕然。だからアメリカではamazon.comが必要なんだわ！とつくづく納得した一日でした。

ホンじゃあ、マッサネ~！女神様にKiss、マッシー~！

● 関連 URL はココ！
● 観光に来る前にぜひ見ておきたい自由の女神の情報
<http://www.nyc tourist.com/liberty1.htm>
● 自由の女神のすべてが分かる！！
<http://www.endex.com/gf/buildings/liberty/liberty.html>

● マッシー川口さんのニューアルバム
「masshy@love.net」

● 人気ゲーム「ときめきメモリアル」関連で唄ってきた曲に、新たにマッシー自身が作詞作曲した作品もリリースして、いいアルバムに仕上がってマス。マッシーの声を知らない人はいますぐCDショップに飛び込みよう！ (発売：コナミ株式会社)



歩もお忘れなく！正面だけじゃなくて、横から、斜めから、後ろからの女神様の姿は絶品！これ眺めて帰らなくちゃね。ちなみに女神の後ろの足どうなってるか、知ってる？へへへ

海からの潮風に自由に飛ぶ、海鳥の姿を追いかけながら、芝生の反対側に遠くマンハッタンがかすんで見える。ここでゆっくりした後、リフレッシュメント（休憩所）で、ハンバーガーやサンドイッチと飲み物を買って、外のテラスで海を見ながら、ランチを楽しんで、きままだまに帰りの船に乗ればヨシ。帰りはエリス島を経由するので、ここで降りてニューヨークの移民の歴史を勉強するとまた違う感動があって、さらに自由の女神を深く感じる事ができるヨ。当時移民の検問所

だったエリス島のミュージアムには、ヨーロッパから船で新大陸に夢をふくらませてやって来た当時の移民達の息吹が聞こえてきそうな展示がいっぱいなの。映画と当時の所持品などが歴史への扉を開いてくれて、いろんな想いがかけめぐって、なかなか去りがたい。エリス島でもう一度、あらためて自由の女神を眺めると何故かジワーと泣けてくるのだ（おかげさやなあ~）

アメリカ人は自由の女神を見ると泣くという。あそこで泣いている人は見たことはないけれど、家族が子供を連れてきて「アナタのひいおじいちゃんはこの島からいらしたのよ」などと、子供に教え込む親達の姿も少なくないのね。いまではコンピュータを使って、当時の移民達の残した足跡の「名前のサイン」を見ることができるの。アメリカ人の大半のご先祖はヨーロッパからの長い船旅の末にこの島に到着し、裸で検査され、残れるか、また病気などで追い返されるかの天国と地獄の監査を受けてアメリカに上陸したんだからね。



Illust: Kido Satoko





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp